

■藤原基経(昭宣公)
ふじわらのもとつね
遣唐使17遭難 836=

公卿。陽成天皇を退位させ光孝天皇を擁立、〈阿衡事件〉で宇多天皇に勝利、摂関家の権勢を確立。

生。北家藤原長良の三子で、母は藤原綱継の女乙春。

のち、藤原良房の養嗣子となる。

承和の変・・・842＝6歳：

• • • • • 845 = 9歳 :

- ・ ・ ・ ・ ・ 851=15歳：文徳天皇から加冠されて元服し、
- ・ ・ ・ ・ ・ 852=16歳：蔵人として出仕。

・ ・ ・ ・ ・ 854=18歲：_從五位下。侍從。

左兵衛佐，少納言，侍従などを経て，

人民摂政の実 858=22歳：_清和天皇が即位した直後，蔵人頭となった。

・ ・ ・ ・ ・ 861=25歳：從四位下。

富士山噴火・864=28歳：_参議となり，

応天門の変・866=30歳：*養父良房とともに政敵伴善男を失脚させることに成功，従三位となり，7人を超えて中納言となった。

・ ・ ・ ・ ・ 870=34歳：大納言，

藤原良房没・872=36歳：*右大臣に任ぜられる。養父良房が死去。あとをうけて氏長者として藤原北家の隆盛を画した。

・ ・ ・ ・ ・ 876=40歳：_清和天皇が基経の妹高子を母とする陽成天皇に譲位し，詔で右大臣のまま摂政に就任した。

出羽元慶の乱 878=42歳：基経は学問を好み、この年から始まる「日本書紀」の講書に積極的に参加。畿内校田を行ない、
元慶官田・・ 879=43歳：藤原朝臣冬緒・同山陰らを班田使として畿内に派遣した。班田の実施は50年ぶりのことであり、元慶官田4
千町を設定した。また、出羽の俘囚の反乱には藤原朝臣保則を出羽権守に登用して功績をあげた。

基經太政大臣 880=44歳：_清和上皇の没日に、摂政に相当する官職として太政大臣に任ぜられた。

・ ・ ・ ・ ・ 881=45歳：
 ・ ・ ・ ・ ・ 882=46歳：_准三宮となる。

基経関白の実 884=48歳：「乱行が絶えなかった陽成は退位させられ、当時55歳であった仁明天皇の皇子時康親王(光孝天皇)が即位した。光孝天皇は基経の処遇に気を遣い、菅原道真や善淵愛成に諸博士に太政大臣の職掌や唐での相当官を勘奏させた。結局、太政大臣には明確な職掌はなく、摂政に惟る地位を与えようと考えた場合、太政大臣のみでは不充分であったので、「万政を頒行し」「奏すべきこと下すべきこと必ず先ず諮問せよ」として職務内容を明示した。実質上の関白就任である。基経は光孝の外戚ではなく良房とは違ってその地位は不安定なものであったので、職務内容の明示は必要なことであった。長男時平の元服に際し、光孝みずから加冠を行なったことからわかるように、基経と光孝の間はきわめて良好で、基経も得意の絶頂にあった。

宇多天皇即位 887=51歳：*光孝が崩ずる直前に、臣籍に下っていた第7子源朝臣定省が皇太子に立てられ、崩後、即位して宇多天皇となった。ここに阿衡事件が起こる。宇多は基経に正式に関白就任を要請するため、'それ万機の巨細、百官已に終べ、みな太政大臣に関白し、然る後に奏下すること1に旧の如し'という有名な詔を出し、基経は慣例によってこれを辞退したので、改めて橘広相作の勅笄が出された。そこに'宜しく阿衡の任をもつて卿の任となぜ'といった。"阿衡の任"について疑問をもった基経は、家司藤原佐世の「阿衡は位貴さも職掌なく、官職を解かれたも同然である」という進言をいれて、政務を行わず、宇多は苦境に立ち、

阿衡の儀終・ 888=52歳：'屈服することになる。広相が宇多の意に反して起草したという形で決着した。この際、事件の解決に菅原道真の進言が効果があったともいわれる。この事件の直後に基経の女温子は入内している。学者を家司とし"阿衡"に拘泥したことも、学問を追究する基経らしい一面である。「日本文徳天皇実録」の編纂も行なった。さらに基経は、初の藤氏長者と考えられている。

基経関白辞任 890=54歳：*病を理由に辞表を出し、
道真蔵人頭・ 891=55歳：_没した。